対話と共創でつくる
＼もっと／やさしいまち明石

令和７年度 当初予算（案）

予算規模

■ 一般会計	1,366 億円	前年度比	8.2% 増
特別会計	702 億円	前年度比	0.5% 増
企業会計	254 億円	前年度比	3.2% 減
■ 全会計総額	2,322 億円	前年度比	4.4% 増

ＳＤＧｓ未来安心都市・明石　“もっと”やさしいまち明石

2030年のあるべき姿

SDGs未来安心都市・明石

～ いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで ～

2025年度まちづくり方針

対話と共創でつくる“もっと”やさしいまち明石

重点的に推進するまちづくりの柱

体育館に空調整備　全13中学校と明商に

こどもを核としたまちづくり

教育環境の向上

猛暑時等の生徒のリスク低減

安全安心のまちづくり

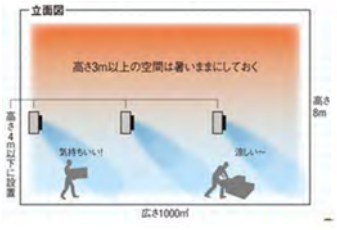
災害対策の向上

避難時の市民の健康維持

■ 大風量エアコンの導入　事業費 3.7億円

直進性のある大冷風、消費エネルギー量が少なく環境負担を抑制

- 空調機器設置　400万円×75台（1校当たり3～5台）3.0億円
- 高圧受変電設備の改修　500万円×14校　0.7億円



■ 遮熱シートの設置

- 民間提案制度による試行的取組
- 効果検証の結果を踏まえ、他校への導入を検討

強度行動障害のある人へのグループホーム利用支援

インクルーシブのまちづくり

住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり

親亡き後の生活場所や
入所施設等からの地域移行の受け皿に

■ 強度行動障害のある人を受け入れるグループホームへの加算　事業費 2,900万円

①強度行動障害支援者養成研修修了者を配置するグループホーム　かつ
②国の報酬体系以上の人員配置を行う場合

- 加算額

国の加算	30:1以上、12:1以上	約1,000円/日
市の独自加算①	2倍配置⇒6:1以上	+1,000円/日
市の独自加算②	3倍配置⇒4:1以上	+2,000円/日
市の独自加算③	4倍配置⇒3:1以上	+3,000円/日
市の独自加算④	5倍配置⇒2.5:1以上	+4,000円/日

※ 強度行動障害とは、自傷、他害など本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態のこと

幼稚園 5歳児クラスの30人学級の実施

こどもを核としたまちづくり

教育環境、教育の質の向上

よりきめ細やかな保育を実施

■ 学級数増加に伴う幼稚園教諭の配置　事業費 1,450万円

＊ 幼稚園の1学級の幼児数
- 国の幼稚園設置基準　35人以下
- 明石市独自の編成　　30人以下

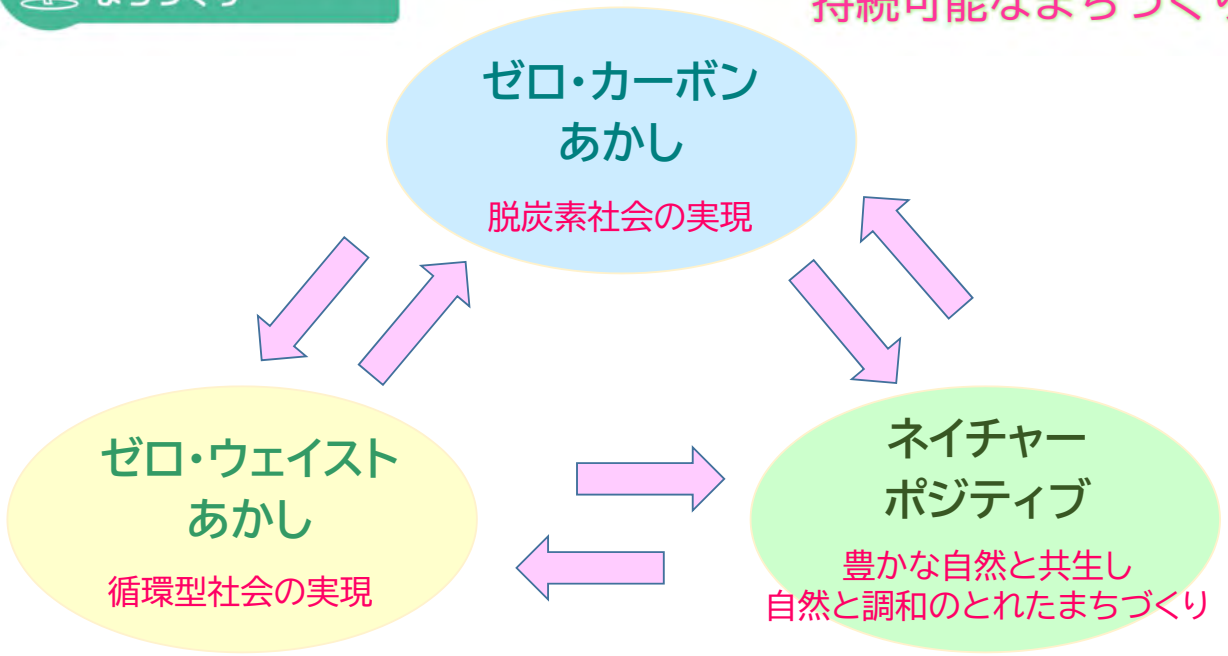
2025年度から全ての公立幼稚園で実施

- 学級増が見込まれる公立幼稚園　3園
- 配置が必要となる幼稚園教諭数　3人

あかし サスティナブル スリー

豊かな自然を活かした
まちづくり

環境と経済と社会の好循環による
持続可能なまちづくり



あかし サスティナブル スリー

ゼロ・カーボン あかし

- ■ 事業者向け脱炭素経営支援制度
- ■ 家庭向け脱炭素化設備導入支援事業
- ■ 公共施設の脱炭素化推進事業

事業費 2．3億円

ゼロ・ウェイスト あかし

- ■単純指定ごみ袋の導入検討
- ■家庭用生ごみ処理機等の助成
- ■ 生ごみ処理機の導入
- ■小学生用ごみ学習本の再編
- ■ 紙類の再資源化の推進

事業費 1,020万円

ネイチャー ポジティブ

- ■（仮称）水とみどりでつながる　あかしネイチャーポジティブ宣言
- ■ 生物多様性あかし戦略の改定
- ■ 教育現場との連携による環境教育の推進
- ■ 大久保北部市有地における里山の環境整備
- ■ 神戸市との連携協定に基づく取組
- ■特定外来生物の防除等

事業費　630万円

「対話と共創」のまちづくり　第2ステージへ

対話と共創のまちづくり

事業費 1,018万円

■ 対話を通じたまちづくりの推進

- 「(仮称)対話と共創のウィーク」の開催
  期間中における様々なワークショップやシンポジウム等の開催
- 市民ファシリテーター養成講座の開催
- 世代別やテーマ別のタウンミーティングの開催

■ 産官学民との共創によるまちづくりの推進

- 「(仮称)共創プラットフォーム」の構築
  構成メンバー(案):市各部局、民間企業、業界団体、大学・研究機関、金融機関、まちづくり協議会、市民団体、NPO法人、あかしSDGsパートナーズ等
- 民間提案制度の実施
- 多様な主体との包括連携協定の締結と運用

市民生活や経済活動の様々な困りごとへの対応、道路や上下水道等インフラの維持管理など、日常を支える施策にもきめ細やかに目配りし、市民のみなさまの「**安心**」を広げていきます。